



## Support group for gay surrogacy in the UK.

英国におけるゲイのための代理出産サポートグループ

### Interviewee

Two Dads UK  
Mr. Michael Johnson-Ellis

### Q. 自己紹介をお願いいたします。

イギリスを拠点に活動している。夫の Wes とは、結婚して 10 年になる。二人の間には、英国での代理出産（1 人の代理母と 2 人の卵子ドナー）を通じて生まれた 2 人の子供(2016 年に誕生した Talulah と 2019 年に誕生した Dule)がいる。また、Wes の前の結婚生活で生まれた娘 Katie がおり、彼女の義父でもある。

不妊治療の分野で働き、不妊治療における人材紹介業を営んでいる。

### Q. Two Dads UK について、簡単に紹介をお願いします。イギリスにある他の類似の団体(依頼者・親のためのサポートグループ、兼エージェント)との相違点はどこにありますか？

Two Dads UK のウェブサイトをはじめたのは、2017-18 年にかけて、最初の代理出産の子どもである Talulah（現在 6 歳）が誕生してから間もなくのこと。自分たちの代理出産の旅の間、特にゲイ男性をターゲットにした、信頼できる情報が欠如していることがわかった。そこで、自分たちがどのように家族をつくったかを紹介し、人々が同じように家族をつくるための情報を得られる場所をつくりたいと考えた。仕事を通じて良いネットワークを築いており、その人脈を他の人たちと

も共有したいと考えている。Two Dads UK は、無料の情報共有サービスとして運営されている。また、これから親になろうとする人たちに情報を提供するために、定期的に説明会を行っている。

### My Surrogacy Journey

(mysurrogacyjourney.com) という代理出産サービスを提供する組織も運営している。英国政府から推奨されている、英国に 4 つしかない非営利の代理出産組織の 1 つだ。2021 年 2 月に設立され、現在、英国で最も急成長している代理出産エージェントだ。同組織は、主にヨーロッパと米国出身の依頼親が、英国で代理母や卵子ドナーを見つけるための支援を行っている。代理出産のプロセスのあらゆる面において、依頼親をサポートする会員制の商品を提供している。

My Surrogacy Journey は、自分と Wes の、親としての個人的な経験に基づいて設立され、そこが他の同様の組織と異なる点だ。自分と夫は、最近の生活経験から、これから親になる人が陥りやすい問題や、より多くのサポートを必要としている分野を理解している。また、会員特典も充実しており、競合他社の 15 倍以上の特典を提供している。例えば、不妊カウンセリング、看護師・助産師 (midwife/doula) によるサポートなど。会員資格は、性的指向、独身かカップルか、などを考慮し、カスタマイズされる。近い将来、英国で法改正が行われたときに備えて、この組織を「法改正対応型メンバーシップ」と称している。

My Surrogacy Journey は 23 人のスタッフで、現在 110 組の依頼親（同性・異性カップルが半々）のサポートをしている。



**Q. Two Dads UK では、海外の代理出産の仲介も行っていますか？ コロナ後の現在、海外での代理出産事情は、どのようになっていますか？**

COVID-19 の大流行により、代理出産の状況は大きく変わった。人々の渡航に対する意欲が変わった。にもかかわらず、需要は減少していない。それどころか、増加の一途をたどっている。

**Q. ゲイコミュニティの中で、代理出産で親になろうとする人々は、どのような位置にありますか？ マイノリティでしょうか。子どもを持たない選択、養子を取る人もいますが、何がそういった選択を分けますか？**

ここ 6~7 年、ゲイ・コミュニティの代理出産は確実に増えてきている。2004 年、英国で生まれた代理出産のうち、ゲイカップルの出産は 5% 未満だった。現在では 47% となっており、ゲイカップルは最も急速に増加した親として知られている。社会的な認知度が高まり、より多くの人々が代理出産サービスを利用できることに気づいた結果だ。

家族を始めるために代理出産を選択できるかどうかは、経済的な面が大きく影響する。アメリカでの代理出産は 20 万ドル以上かかることもある。また、養子縁組も非常に高額だ。自分の場合、養子縁組は絶対にしたくなかったのだから、代理出産が望ましい選択だった。もし人々が自分自身に正直であれば、希望する選択肢があるはずだと考えている。しかし、最終的には経済的な余裕があるかどうか重要なポイントになる。イギリスでは、卵子ドナー付きの代理出産は、約 45,000~50,000 ポンドかかる。

卵子ドナーと代理母が既に決まっています、My Surrogacy Journey に来る人もい

る。この場合、サポートのみのオーダーメイドのメンバーシップを利用することができる。

**Q. 代理出産で親になろうとするゲイカップルにとって、どんな懸念や心配事がありますか？ 最終的には諦める人もいますか？**

ゲイカップルは、代理出産に伴う搾取のリスクを恐れている。そのため、しっかりとした実績があり、信頼できる組織と仕事をする事が不可欠だ。代理出産を希望する親は、代理母が子供を手元に置きたいのではないかと心配するが、代理出母も同じように、依頼親が考えを変えるのではないかと心配する。このプロセスに関する不安はストレスになり、費用が高額であるために増幅される。

代理出産の長所と短所を考慮した上で、考えを変えた人に会ったことがない。My Surrogacy Journey に参加する前は、ほとんどの人がこのプロセスについて全く知らない状態だ。しかし、My Surrogacy Journey を利用することで、なぜサポートが必要なのかを理解することができる。

**Q. お子さんたちに対して、代理母や卵子ドナーについてどのように話してきましたか？ 幼稚園や小学校など、他の子供や大人たちとの関係は？**

長女 Talulah は、自分の代理母が誰かをちゃんと知っている。誕生日やクリスマスなど、四半期ごとに Caroline と会い、話している。Talulah は、卵子ドナーがいることも、自分が家に連れて来られるまでの間、代理母が守ってくれたことも知っている。子供の福祉のために完全な情報開示を行っていて、「正直は最良のポリシー」であると思っている。



自分たちの団体に支援を求めに来る人々については、出自を子供に伝えるかどうかは、親の選択であると考えている。自分たちの提案は、常に子供の福祉に重きを置いており、依頼親の希望は考慮しない。しかし、自分たちと同じ信念を持ち、実際に子どもに真実を伝えることを強制することはできない。

今日まで、Talulahにとって学校での困難は全くなかった。彼女は、自分がどこから来たのか、会う人、会う人に嬉しそうに話している。母親がいないこと、女性のお腹の中で育ったこと、父親が二人いることを説明する。彼女は、同性間の子育てと代理出産の素晴らしい擁護者であり、自分たちは彼女をととても誇りに思っている。

#### Q. お子さんたちにとって、代理母や卵子ドナーはどのような存在ですか？ 代理母より卵子ドナーに興味を持つ子が多いように思いますが、お子さんたちもそうでしょうか？

代理母の Caroline とは家族ぐるみの友人だ。二人の友情は代理出産の過程で芽生えたもの。Caroline は、子育ての決定には一切影響を与えない。

Talulah の卵子ドナーは、非匿名の提供者であったため、Talulah は 18 歳以降にドナーの識別情報を入手することができる。Duke のドナーは、不妊治療の看護師をしている友人で、自分たちの生活にとっても積極的に参加している。しかしどちらも、自分たちがどのように子供を育てるかについて、何かを言うてくることはない。

現在、Talulah は代理出産というものをより理解している。彼女は別の女性が助けてくれたことを知っているが、Duke を身ごもった Caroline を見ているので、自分

のお腹に赤ちゃんができることを理解している。自分は、もっと適切な年齢になってから、卵子提供について娘と話し合うつもりだ。このような会話は、「大げさ」でも「座ってのおしゃべり」でもない。あまり強調しすぎないように、淡々と話している。どちらの父親が彼女の実の親なのか、話すべき時が来れば、それについて話し合うつもりだ。

#### Q. ゲイカップルの依頼親が、代理母との関係を良好に保つためには何が重要ですか。

全員が同じ考えを持っている事が重要で、それぞれの当事者が代理出産の旅から何を得たいかを理解する事が大切だ。依頼者と代理母は利他的なモデルに満足する必要がある。また、その関係が長続きするのか、それとももっと取引的なものなのかを知る必要がある。オープンな対話はとても重要だ。

コミュニケーションが遮断され始めると、当事者間の関係が険悪になることがある。このようなことはあまり起こらないが、起こった場合は、関係性の崩壊が原因だ。イギリスでの代理出産は、友情関係が第一で成り立っているため、安全で非常にリスクの低いものだ。

#### Q. 近年、ドナーのアイデンティティを公開すべきだという考え方が強くなってきました。代理出産を依頼するゲイカップルの間で、この点についてどのように考えられていますか。

ゲイカップルは特に問題にしていらない。ほとんどの人が精子ドナーになったことがあるか、これからなる人なので、そのコンセプトを理解している。最近では、最初からドナーがわかっているほうが良いという人が増えている。ドナーに



ついて知りたい、ドナーを積極的に選びたいという依頼親（ストレート、ゲイを問わず）の関心が高まっていることを実感している。この点で、大きな変化が起きている。

**Q. 育児のプロセスは想定通りでしたか。それとも、予想より大変でしたか？ 3人の子供たちの世話をどのように分担していますか。子供たちの朝から寝かしつけまで。**

子育てが自分を大きく変えたことに驚いている。より寛容になり、より我慢強くなり、利己的でなくなった。自分のことより子どものことを優先して考えなければならないので、行動も変わり、結婚生活もより豊かになった。また、子育てをすることで、子育てをする仲間も増え、人生が豊かになった。全体として、今までで一番大変だが、一番いいことだ。このことが、自分と夫がキャリアを変えた理由でもある。それは、他の人が家庭を築き、その喜びを経験できるようにするため。

自分と夫に決まった育児分担はなく、タッグチームのように、平等に子育てをする。二人とも活発で、すべての活動を分担しているので、性別による役割分担はない。カップルであれば子育ては常に平等に分担すべきと考えている。

**Q. 育児は伝統的に女性の仕事だとされてきました。男性が育児をすることは masculinity と矛盾しますか。**

残念ながら、私たちは非常にヘテロ規範的な言葉の中で生きている。ジェンダーバイアスのスペクトラムは息苦しいものだ。自分は常に毒になる男らしさを忌み嫌い、ゲイとして敬遠してきた。子育てのすべての要素を探求することを受け

入れ、子供たちがする色々なゲームやスポーツを通して、子供たちとの思い出作りを楽しんでいる。

**Q. ヘテロの男性はあまり育児の経験しませんが、この点について、親としてどんな経験をしてきましたか？ 具体的なエピソードなどがあれば教えてください。**

ストレートの男性と差別化することを意識しているわけではない。自分はただ、子どもの人生のあらゆる側面に関わりたいたいだけだ。もし、それを望まない人がいたら、それはその人の損失だ。子どもの育ちのあらゆる面に関わることは、自分を親として成長させるのであって、男として劣ることではない。

**Q. 代理出産の計画から、親になるまで、親になった後まで、色々な話し合いが必要になってきます。カップル間で生じる葛藤は、どのように乗り越えられますか？**

自分と夫にとって、その決断は非常に容易だった。というのも、Wesにはすでに異性との交際から生まれた子供がいたから。まず自分の精子を使い、次にWesの精子を使うことを考えていた。それは決して重大な、あるいは困難な会話ではなかった。他のカップルにとっては、これは確かに厄介な会話になるかもしれない。もし、その決断ができないのであれば、胚培養士に最高の胚を選んでもらい、最高の出産ができるようにすべきだというのが、自分からのアドバイスだ。

自分の経験では、親になる前は遺伝にこだわる傾向があるが、子供が生まれるとその重要性が薄れると考えている。

カウンセリングは、My Surrogacy Journeyのプロセスの大きな部分を占め、



依頼親がこれらの難しい決断をする手助けをする。

め、最終的に子供同士が遺伝的に繋がっていないという重大な結果を招いた)

**Q. ゲイカップルの親にとって、男の子の育児と、女の子の育児は違う経験でしょうか。どのような点に留意していますか？**

大きな違いを感じていない。息子は多くのアレルギーを持っており、これは（性別とは関係ないとはいえ）課題となっている。子育てのモデルは、2人の子どもとも同じ。

自分は当初、息子を最初に望んでいたが、夫の助言で様子を見ることにした。Talulahは素晴らしい人間で、娘を育てるという経験に驚かされ喜んでいる。子供たちを平等に愛しているが、それぞれの子供と異なる関係を持っている。

**Q. 代理出産で親になろうとするゲイ男性/ゲイカップルにとって、最も考えるべき重要なことは何でしょうか。アドバイスは？**

自分がアドバイスするのは、親になる手助けをしてくれる団体を深くリサーチすること。チームを注意深く賢く選ばなければならない。代理母とは、短距離走ではない。多くの要素をまとめて行う耐久テストだ。

自分と夫は、代理出産のプロセスを進める中で、多くの困難に直面した。多くの間違いを犯し、他の誰にも同じことをさせないことを誓った。主なチャレンジは以下の通り。

- クリニックの選択
- 胚の作製と品質についての理解
- ドナーの選択
- ドナーにいくら支払うか
- 子供たちが遺伝的につながるよう確認すること（不十分なアドバイスを受けたた

**Q. その他**

自分と夫は、オーストラリア、サンフランシスコ、英国で「モダン・ファミリー・ショー」(ModernFamilyShow.com)という展示会を運営している。自分たちの目標は、人々が家族創造の領域におけるすべての選択肢を理解するのを助けること。

また、最近、家族を持つカップルを支援するためのチャリティー団体を設立した。代理出産の旅の資金を援助するための助成金プログラムを構築している。

代理出産に関する英国法律委員会の法案が2023年3月から4月にかけて発表される予定だ。自分は、2017年から草案作成に携わってきた。法案では、依頼親とその代理母の間で支払われる費用の問題など、いくつかの重要な問題が扱われる予定だ。現在では家庭裁判所は、費用（これらは平均約15,000ポンド）を審査する。平均より高い費用が支払われていた場合、裁判所は状況を調査する間、依頼親に親権命令を与えない。

(2022年11月)



**Mr. Michael Johnson-Ellis** [Link](#)

Wes との間に Katie, Talulah and Duke の 3 人の子供がいる。Katie は Wes の前の結婚で生まれた娘であり、Talulah と Duke は英国で実施した代理出産で生まれた。

夫の Wes と代理母を探しているゲイカップルのため TwoDadsUK.com を共同設立。自身の経験の紹介し、家族をつくるために必要な情報を共有している。また、My Surrogacy Journey の共同創設者でもあり、代理出産サービスを提供する組織も運営している。

YouTube:

[Michael and Wes talk about their Surrogacy journey and TwoDads.U.K](#)

記事:

[Surrogacy in the UK is built on trust and patience, but it's absolutely possible to create your family this way. \(hfea.gov.uk\)](#)

Instagram:

[MichaelJohnsonEllis\(@official\\_michaeljohnsonellis\) • Instagram](#)